

呉工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	現代文
科目基礎情報						
科目番号	0012		科目区分	一般 / 選択必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	環境都市工学科		対象学年	2		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	『現代文B』（筑摩書房）					
担当教員	上芝 令子					
到達目標						
1. 日本語で書かれた文章類（小説，評論，詩歌）を正しく読解すること。 2. さまざまな文章にふれ、思索できる力や感性などを身につけること。 3. 作品が書かれた時代、作家に関する知識を身につける。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	日本語で書かれた文章類（小説，評論，詩歌）を正しく読解することができる		日本語で書かれた文章類（小説，評論，詩歌）を読解することができる	日本語で書かれた文章類（小説，評論，詩歌）を読解することができない		
評価項目2	さまざまな文章にふれ、思索できる力や感性などを身につけることが適切にできる		さまざまな文章にふれ、思索できる力や感性などを身につけることができる	さまざまな文章にふれ、思索できる力や感性などを身につけることができない		
評価項目3	作品が書かれた時代、作家に関する知識を身につけることが適切にできる		作品が書かれた時代、作家に関する知識を身につけることができる	作品が書かれた時代、作家に関する知識を身につけることができない		
学科の到達目標項目との関係						
本科 (HA)						
教育方法等						
概要	1年次での「国語総合（現代文）」に引き続き、国語を的確に理解し、適切に表現できる基礎学力、日本語日本文化に関する見識を身につけるために、現代日本の思想や文化を代表する評論・小説・詩などを学習する。					
授業の進め方・方法	講義を基本とする。適宜課題提出も課す。					
注意点	授業に対する真摯な態度が何より基本である。作品を理解し、自らの頭でしっかり考える力を積極的に養おうとする姿勢が重要である。発想の幅を広げ、自由にものを見る思考のレッスンにより、教養の幅を広げていってもらいたい。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス、中島敦の文学		1. 小説「山月記」 東西の芸術観の相違点、美意識の異なりについて考える。 今日に生きている伝統的な美意識について各自で思考をめぐらす。	
		2週	中島敦「山月記」			
		3週	中島敦「山月記」			
		4週	中島敦「山月記」			
		5週	中島敦「山月記」			
		6週	中島敦「山月記」			
		7週	中間試験			
		8週	寺田寅彦「科学者と頭」		2. 評論「科学者と頭」 「自然に学ぶ」とはどういうことかを考える。 自然と共生する人間のあり方について思いをめぐらす。	
	4thQ	9週	寺田寅彦「科学者と頭」			
		10週	寺田寅彦「科学者と頭」			
		11週	寺田寅彦「科学者と頭」			
		12週	室生犀星「小景異情」		3. 詩「小景異情」「永訣の朝」 人物形象と事件の読解を通して主題を理解する。 作者に関する文学史的知識を身につける。 当時の社会状況を理解した上で、恋愛・生きることの意味を考察する。	
		13週	宮沢賢治「永訣の朝」			
		14週	宮沢賢治「永訣の朝」			
		15週	期末試験			
		16週	答案返却・解答説明			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。	2	後8
				代表的な文学作品を読み、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わうとともに、その効果について説明できる。	2	後12
				文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。	2	後8

				文学作品について、鑑賞の方法を理解できる。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。	2	後12
				鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章（詩歌、小説など）の創作をとおして、感受性を培うことができる。	2	後8,後12
				読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。	2	後8,後12
				現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。	2	後8,後12

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0